

桐生信用金庫の本店・本部の建替え

ポイント

- 桐生信用金庫は、老朽化した本店・本部を建て替え、2022年9月の新本部での業務開始に続き、2025年2月には新本店をグランドオープンしている。
- 同金庫は市場拡大の見込める太田市に新本部を移転することで、更なる業容拡大を目指すことにした。
- 一方、新本店は創立100周年に合わせグランドオープンしたもので、これまでの歴史や文化を踏襲しつつ地域（桐生市）のランドマークとしての期待も有する。
- 同金庫の本店・本部の建替えは次の100年を見据えた施策であり、またDXの進展などから本店と本部の距離が離れたことに伴うデメリットもみられない。

1. 建替えの経緯

群馬県桐生市に本店を置く桐生信用金庫（**図表1・2**）は、老朽化した本店・本部を建て替え、2022年9月に新本部を太田市（再開発地域）に移転オープン、続く2025年2月には新本店を桐生市（旧本店・本部跡地）にグランドオープンした。1966年建設の旧本店・本部は老朽化が著しく、なかでも2011年3月に発生した東日本大震災による被害が直接の契機となり、具体的な本店・本部の建替えプロジェクトが動き始めた。

同金庫の本店所在地である桐生市は地場産業の衰退から人口減が続いていた。一方、隣接する太田市は㈱スバルを代表とする製造業が盛んであり、今後の市場拡大が期待される。そこで同金庫は太田市に本部を移し、経営資源を厚く投下することで業容拡大を図ることとした。一方の桐生市内は生産性を向上しつつ、引き続き良質な金融サービスを提供するべく、旧本店・本部跡地に新本店を建て替えることとした。

（図表1）同金庫の概要（24年度末）

本店所在地	群馬県桐生市
本部所在地	群馬県太田市
創 立	1925（大正14）年2月14日
預金残高	5,665億円
貸出金残高	3,148億円
店舗数	31店舗、2出張所、2センター
役職員数	431人

（図表2）新本店の外観



（備考）図表1から4まで信金中金総研作成・撮影

なお、新本部の移転に際して、同金庫は地元顧客などへの丁寧な説明を繰り返すことなどで理解を得た。

2. 新本部の業務開始

同金庫の新本部は2022年9月、太田駅前の再開発地域（再開発ビル）で業務を開始している。新本部は5階建てで、1階には太田支店・内ヶ島支店および相談特化型の Kiricos（キリコス）太田を併設する。環境・BCP対策に加え、本部執務フロアはフリーアドレス・Wi-Fiを導入するなど、柔軟な働き方を実現しており、職員のエンゲージメント（ES）向上にも工夫を凝らした仕様が特徴と言えよう。

3. 新本店のグランドオープン

同金庫は2025年2月の創立100周年に合わせて新本店を旧本店・本部の跡地にグランドオープンした。新本店は2階建てで1階に本店営業部・境野支店および Kiricos 桐生、2階に理事長室や本部機能、ホールを備えた ZEB 対応の建物となる。

新本店は創立100年の歴史や文化を踏襲しつつ地域のランドマークとしての役割を有する。そこで本店営業部のロビーには地元桐生市の伝統的な産業である「桐生織」を取り入れた空間プランニングを実施し、また初代本店から踏襲したレンガ調の外観および風見鶏を設置している（図表3・4）。

4. 今後の展開

同金庫の本店・本部の建替えは、次の100年を見据えた施策であり、当該プロジェクトに限らず今後も時代変化に応じた柔軟な経営戦略を打ち出していく考えである。当初、本店と本部の距離が離れることを懸念する声もあったが、近年のDX進展などもあり特段のデメリットは発生していない。

（図表3）本店営業部・境野支店のロビー



（図表4）新本店設置の風見鶏



本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがって、投資・施策実施等についてはご自身の判断をお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。